

様式第 2 (第12条関係)

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況 (内規第 11 条 活動報告)

| | | |
|---|---|---|
| 団体名 | 和 | アジア科学アカデミー・科学協会連合 |
| | 英 | The Association of Academies and Societies of Sciences in Asia (略称 AASSA) |
| | 団体 HP (URL) | http://aassa.asia (日本学術会議が加盟していることの記載 (有)・無) |
| 国際学術団体における最近のトピックについて (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等) | <p>IAP (約 140 以上の科学アカデミーが加盟している国際学術団体) は 4 つの地域ネットワークとして AASSA (アジア太平洋)、EASAC (欧州)、IANAS (アメリカ大陸)、NASAC (アフリカ) を傘下に有している。このうち AASSA は、オーストラリア・ニュージーランドを含む 32 のアジア太平洋地域の加盟機関により構成されており、事務局は韓国 (Korean Academy of Science and Technology : KAST) が務めている。AASSA の直近のトピックは、以下のとおりである。</p> <p>(1) 女性研究者の活躍推進を目的として、28 カ国の女性研究者各々の科学者としてのキャリアパスや科学者を志す女性へのメッセージを取りまとめた “Profiles of Women Scientists in Asia Their inspirational stories” を刊行 (2018 年 10 月) https://www.interacademies.org/publication/profiles-women-scientists-asia</p> <p>(2) Science Breakthroughs: Paid news, Fake news and ethics と題したワークショップの開催 (2019 年 2 月 インド)</p> <p>(3) Managing Urbanization in Asia と題したワークショップの開催 (2019 年 6 月 スリランカ)</p> <p>(4) Complimentary Medicine as an Answer to Challenges Faced in Achieving Sustainable Goals in Health と題したワークショップの開催 (2019 年 8 月 パキスタン)</p> <p>(5) Crop Biotechnology for Sustainable Agriculture と題したワークショップの開催 (2019 年 9 月 韓国)</p> <p>その他、ヘルスケア、食料安全保障等の世界共通のトピックをワークショップ等で議論し、その成果を刊行物として公表するなど積極的に活動している。</p> | |
| 政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方 | <p>前述の通り、AASSA は IAP 傘下の地域ネットワークである。IAP は様々な学術分野を幅広く網羅する世界有数の国際学術団体であり、AASSA は、IAP が世界的に重要であると判断した</p> | |

様式第 2 (第12条関係)

| | |
|--|---|
| 式・研究助成方式等について | <p>研究テーマ等をアジア太平洋地域で展開し、IAP へフィードバックするという重要な役割を担っている。</p> <p>直近では、IAP がドイツ連邦教育研究省の協力・助成により「Climate Change and Health (気候変動と健康)」をテーマとした研究プロジェクトを立ち上げた。AASSA は、当該研究プロジェクトチームを新たに結成し、日本学術会議からは上田佳代連携会員が推薦・選出されている。現在、気候変動による健康影響の現況と未来予測及びその健康影響を予防するための適応策と緩和策等について、報告書の取りまとめを行っている。</p> |
| 日本人役員によるイニシアティブ事項や日本からの参加によって進展や成果があったものについて | <p>2018 年の総会にて吉野博連携会員が理事に選出され、新たな委員会の設置やワークショップの開催等、役員として重要な議論に参画している。前述の研究プロジェクトに加え、後述する 4 つの特別委員会では日本学術会議から会員・連携会員が委員として参画しており、研究成果や課題を各国報告書として取りまとめ、他国や IAP に展開する等、幅広く活躍している。</p> |
| 加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民への変化やメリットについて | <p>日本学術会議は日本を代表して IAP に加盟しているが、アジア及び南洋州地域をカバーする AASSA で日本の研究者の存在感を示すことは、IAP における日本のプレゼンスを高めることに直結する。また、世界的な科学の潮流やアジア太平洋地域に関係する研究の取り決めなどに直接参画できることは日本にとって有益である。アジア地域における科学者同士のネットワークは十分でなく、AASSA を通じた研究交流活動は、日本の科学者が活躍しやすい環境づくりに資するものである。</p> |
| その他 (若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など) | <p>女性研究者の活躍推進については、特別委員会 (Women In Science and Engineering Committee) が設置されており、アジア太平洋地域内の科学教育の推進、科学・工学における女性の活躍推進を目的として“Profiles of Women Scientists in Asia Their inspirational stories”を刊行している。</p> |

2 今後の予定について (内規第 11 条 活動報告)

| | |
|-----------------------------------|---|
| 総会、理事会の日本開催の予定について (招致等の予定も含め) | <p>理事会やワークショップ等は 30 カ国の加盟アカデミーの持ち回りで開催されているが、2017 年にワークショップを日本で開催したことから、日本の開催招致は現状予定していない。</p> |
| 日本人の役員立候補等の予定について | <p>前述のとおり、現在は吉野博連携会員が理事を務めている。次の総会 (2020 年) で次期役員を決定することとなるが、様々な機会を捉え、今後も AASSA のプラットフォームを有意義に活用できるよう方針を検討していく。</p> |
| 現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動きについて | <p>日本側からの直接的な提案による直近の提言等はないが、前述のとおり、気候変動に関する国際的プロジェクトと、4 つの特別委員会においてそれぞれ、日本学術会議の会員・連携会員がメンバーとして活躍している。</p> |

様式第2 (第12条関係)

3 国際学術団体会議開催状況 (内規第11条 活動報告)

| | | | | |
|--|---|--|------|------------------------|
| 総会・理事会・各種委員会等の状況 (過去5年間及び今後予定されているもの) | 総会開催状況 | 2021年(開催地:未定)、2018年(開催地:タイ) 2016年(開催地:トルコ)、2014年(開催地:インド) 2012年(開催地:スリランカ) | | |
| | 理事会・役員会等開催状況 | 2020年(開催地:未定) 2019年(開催地:韓国)、 2018年(開催地:タイ)、2017年(開催地:フィリピン)、 2016年(開催地:トルコ)、2015年(開催地:韓国)、 2014年(開催地:インド)、2013年(開催地:フィリピン) | | |
| | 各種委員会開催状況 | 2019年秋には特別委員会が新たに設立され、Sustainability Committeeには福士謙介連携会員、Science Education Committeeには氷見山幸夫連携会員、SHARE (Science, Health, Agriculture, Risk, Environment) Committeeには澁澤栄会員が委員として活躍している。また、2017年に設立されたWomen In Science and Engineering Committeeでは渡辺美代子会員が委員を務めており、昨年再任を果たしている。さらに、IAPのClimate Change and Healthプロジェクトには上田佳代連携会員が報告書の取りまとめ等、メール審議を主として参画している。 | | |
| | 研究集会・会議等開催状況 | 2019年(開催地:インド)、2019年(開催地:スリランカ)、 2019年(開催地:パキスタン)、2019年(開催地:韓国)、 2018年(開催地:タイ)、2018年(開催地:ロシア)、 2018年(開催地:バングラデシュ)、2018年(開催地:マレーシア)、 2018年(開催地:インドネシア)、2017年(開催地:日本) | | |
| 上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定 | 記載例) ○○年、○○○会議(開催地名)、○○人(うち代表派遣:氏名) 2019年理事会(韓国)、1人(吉野 博) 2018年定期総会(タイ)、1人(澁澤 栄) 2017年理事会(フィリピン)、1人(大西 隆) 2016年理事会(トルコ)、1人(花木 啓祐) | | | |
| 国際学術団体における日本人の役員等への就任状況(過去5年) | 役職名 | 役職就任期間 | 氏名 | 会員、連携会員の別 |
| | 理事 | 2018~2020年 | 吉野 博 | (24-25期) 会員・ <u>連携</u> |
| | 理事 | 2014~2018年 | 大西 隆 | () 期) <u>会員</u> ・連携 |
| | | ~ | | () 期) 会員・連携 |
| | | ~ | | () 期) 会員・連携 |
| | | ~ | | () 期) 会員・連携 |
| | | ~ | | () 期) 会員・連携 |
| 出版物 | 1 定期的(年 回) 主な出版物名 | | | |
| | <u>2</u> 不定期() 主な出版物名 | | | |

様式第2 (第12条関係)

活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載
 (http://aassa.asia/download/AASSA%20Brochure%202016-2018_website.pdf)

4 国際学術団体に関する基礎的事項 (内規第3条、4条、5条)

| | | |
|-----------------------|--|---|
| 国内委員会 (内規4条第3号) | 委員会名 | アジア学術会議等分科会 |
| | 委員長名 | 澁澤 栄 |
| | 当期の活動状況 | (開催日時 主な審議事項等) 2018年1月5日 2018年2月19日 2018年3月19日 (メール審議) 2018年5月10日 2018年7月17日 2018年8月24日 2018年11月7日 2019年2月20日 (メール審議) 2019年6月18日 2019年10月18日 (メール審議) 2019年11月13日 2020年2月14日 (メール審議) |
| 内規第3 (国際学術団体の要件関係) | 国際学術交流を目的とする非政府的かつ非営利的団体である <input checked="" type="radio"/> 1. 該当する 2. 該当しない ※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載 (http://aassa.asia/common/download/AASSA_Constitution.pdf) | |
| | 各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている (主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か) <input checked="" type="radio"/> 1. 該当する 2. 該当しない ※根拠となる資料の添付又は URL を記載 (http://www.) | |
| | 下記の事項 (ア～エ) のいずれか一つに該当するか (該当するものに○印) | |
| | ア 個々の学術の専門分野における統一かつ世界的な組織を有するもの イ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、かつ世界的な組織を有するもの ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの <input checked="" type="radio"/> エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるもの | |

様式第 2 (第12条関係)

| | |
|---|--|
| <p>であって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの</p> | |
| <p>10 ヶ国を超える各国代表会員が加入している</p> <p>① 該当する 2. 該当しない</p> | |
| <p>加入国数及び 主要な各国代 表会員を 10 記載</p> | <p>(30 ヶ国)</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> • 各国代表会員名／国名 • The Korean Academy of Science and Technology 韓国 • Indian National Science Academy インド • Bangladesh Academy of Sciences バングラデシュ • Turkish Academy of Sciences トルコ • Academy of Sciences Malaysia マレーシア • Mongolian Academy of Sciences モンゴル • Chinese Academy of Sciences 中国 • Far Eastern Branch of the Russian Academy of Sciences ロシア • The Academy of Sciences of IR of Iran イラン • Science Council of Japan 日本 |